〇副議長（福島直子君）次に、みわ智恵美君。

〔みわ智恵美君登壇、拍手〕

〇みわ智恵美君　日本共産党を代表し、一昨日の古谷団長に続き、新年度予算について質問いたします。

初めに、能登半島地震で亡くなられた方々に心からのお悔やみを申し上げ、被災された全ての皆様にお見舞い申し上げます。そして、一日も早く日常を取り戻すことができるよう私たちもそれぞれの場で力を尽くす決意を述べまして、質問に入ります。

隣のクラスの担任の先生がずっといない、いるべき先生が配置されていない未配置状態についての保護者からの訴えは私のところにも繰り返し届いています。法に反するこの事態は横浜だけではなく社会問題化していますが、横浜は深刻です。2022年度は未配置が162件、2023年度は半年で110件、122日間の未配置もあったと聞いています。先生を最初から採用しておくべきとただすと、教員採用試験の応募が少なく倍率を下げるわけにはいかないとして、市教委は採用人数を絞り、毎年４月からの欠員ありきでスタートしています。新年度予算を見ますと、非常勤講師等人件費が今年より20億円も増額された67億円です。これは未配置の非常事態を非常勤の先生で乗り切ろうというもので、未配置の解決にはなりません。格差と貧困、不登校やいじめなど権利の主体である子供たちへの行き届いた教育、安心して学べる環境をつくるためにも正規の先生を配置することは当然で急がれます。教師の応募が少なくなっているのは残業代の出ない長時間定額働かせ放題の給特法の下、教員はブラックというのがその根本にあると言われていますから、横浜における過労死ラインを超える月80時間残業の根絶はもとよりです。

一方で、若者には大学卒業時に平均300万円の重い教育ローンを背負って社会生活をスタートさせる奨学金返済問題があります。この２つを解決する道へと日本一の教育都市を目指す市長として、先生がいない、足りない事態の打開に動くときではないでしょうか。千葉県は新年度から教員不足解消に向けた奨学金返済緊急支援事業を始めるということです。教員の長時間労働、未配置、さらなる教員の多忙化という悪循環を助けるためにしっかりと教員を採用する。そのためにも多くの教師を目指す方々が横浜を選択していただけるように、インセンティブとして奨学金返還支援を行うなどに取り組んではどうかと考えますが、市長の見解を伺います。

次は、安全安心の中学校給食推進への進化についてです。

本年度、中学校給食調理中の鍋でたばこの吸い殻が発見されましたが、市外の工場だったので横浜市の保健所は立ち入れませんでした。小学校の給食では、仮に何か事故があっても、その学校に横浜市の保健所が立ち入り、直接指導し、改善が行われることになります。安心安全の当然の姿と考えます。また、この事故の責任は事業者には求められず、税金で穴埋めされました。また、2026年度からの全員給食の製造事業者に参入予定だった事業者が

年末に食中毒事件を起こし、取引事業者から外されました。１万3000食の給食製造担当でした。事業が始まってから事故が起これば、何十校もの給食がストップになります。2026年から始められようとしている横浜市のデリバリー型中学校給食は、毎日、小田原市、綾瀬市、相模原市などの遠隔地と都筑区などの６つの工場で５万3000食、金沢区の工場で２万8000食をそれぞれ製造し、各学校へ配送としています。何とも高いリスクをはらんではいないでしょうか。能登半島地震を目の当たりにした市民が、今年に入って、温かい給食の提供かつ災害時の活用も含め学校調理方式の検討を行うことなど、これから始まる中学校給食について改善を求める署名を始められております。市長は市民のこの声にどうお応えになるのでしょうか、伺います。

一斉スタートにこだわらずに、できるところでは温かい出来立ての給食を提供できるよう学校調理方式を導入するなど実施方式の検討を行うことを改めて強く要望いたします。

次は、どなたにも暮らしやすいまちづくりに欠かせないバス交通の充実についてです。

公共交通には市民の足の確保とともに、大量輸送によって環境負荷、CO_2を減らす役割があります。環境に優しい公共交通に乗ろうとのキャッチコピーは、小学生のポスターコンクールの常連です。市長が公約に掲げられた脱炭素社会に向けて、温室効果ガス削減の取組も地域交通の充実にも大いに期待します。ところが交通局はこの４月、春のダイヤ改正で300本ものバスを減便するとしています。バスドライバーの働き方改革によるものでやむなしとの説明です。バスドライバーに休養時間を保障する働き方改革は当然です。しかし、だからといって大幅な減便、多くの市民の足を奪うことを行っていいはずがありません。しかも市民には全く知らせておりません。交通局は新たな市営交通中期経営計画2023－2026にある経営における５つの柱のうちには、市民の足を守る公営交通の責務がしっかりと位置づけられています。このような大幅減便で公営交通の責任を果たしていると言えるでしょうか、市長の見解を求めます。

当該の中期経営計画を定めるに当たって開催されてきた横浜市営交通経営審議会では想像以上にドライバーの確保、運行維持が困難になる、バスの運転手など就職希望者を呼び込むことも、もっと魅力ある職場づくり、プロモーションが必要との意見が出されていますが、本当にそうだと思います。現在の市営交通を支えているドライバーの年齢構成は21歳から40歳までの方が16.1％、51歳から73歳までの方で59.3％です。ベテランの方々に支えられていると同時に、若い方々に選ばれていないとも言えます。一方で、ベテランドライバーの方が、残業して何とか子供の大学進学を果たしたと低い賃金の問題が語られます。地域交通を守り、CO_2削減を進めていく点からも、横浜市営交通経営審議会で提起されているように、若い方が横浜市のドライバーを目指していただけるようなドライバー確保の取組が求められております。バスドライバーの雇用確保にまずは賃金アップをしっかりと進めていくべきと考えますが、交通局長の見解を伺います。

次に、横浜園芸博覧会の在り方について伺います。

1960年にオランダのロッテルダムから始まった国際園芸博覧会、横浜で開く園芸博は、横浜から明日に向けた友好と平和のメッセージを発信とし、自然共生社会の実現に向けた新たな暮らしのモデルを提案しますとしています。地球温暖化の進行や生物多様性の損失といった世界規模の環境問題や食糧問題の深刻化、限りある地球環境の持続という人類共通の目的に軸を移した環境社会への大きな転換の中にあるという認識の下、開催されようとしています。我が国の現状を振り返れば、エネルギー政策では石炭火力からの撤退もなく原発に頼る。貧困な農業政策で食料自給率が38％、限界集落を広げ、地域ごと、山ごと崩壊する事態です。さらに宅地開発で失われる都市の緑の喪失も進行形です。ここに向き合うことが日本で博覧会を行う意義ではないでしょうか。市長は横浜グリーン博と名づけられました。問題は会期中に会場を緑いっぱいにすることで終わるのではなく、2027年開催までに開催地横浜の緑被率を何％にまで上げるのか、農家戸数も農地面積も減り続けている都市農業をどう守り増やすのか、市民１人当たりの都市公園面積が全国で659位、僅か５㎡の現状をどれだけ引き上げるのか。立てた計画をしっかり実行していくことが必要です。伺います。

今広がっている市民の懸念は、花博開催後の巨大テーマパーク誘致のための大規模な土地改変によって貴重な自然が失われ、希少な生物が生息する生態系が破壊されてしまうのではないかということです。また、大阪万博ではどんどん公費負担がかさむ状況を目の当たりにしています。有料入場者1000万人は過去博などから割り出した運営費360億円を賄うための数であったのが発端です。1000万人集めんがための取組で初期予算を倍加するようなことになれば、到底市民の理解は得られません。公費負担が膨大に膨らむような事態があった場合には有料入場者数の見直しを含めた抜本的な計画の見直しが必要と考えますがどうか、伺います。

最後に、市民に身近な図書館づくりについて伺います。

横浜市図書館ビジョンの策定に向けての市民意見募集が行われ、273通、637件の意見が寄せられ、中でも一番多く寄せられたのが図書館が少ない、１区１館を見直してほしいなどの84件でした。横浜市共産党市会議員団としても同感です。示された横浜市図書館ビジョン原案には、新たな図書館像、５つの基本方針・取組の方向性が示されました。これは市民の声や専門家の意見を取り入れてあり、評価できるものです。問題はどう実現するかです。新年度予算では、学校図書館司書の勤務時間を年５時間増やすなどの増額ではありますが、図書館資料費は僅か1198万円の増であり、政令市最低ランクの１人当たり図書館蔵書数を解消するような増額には全くなっていません。市長は公約で図書館予算の拡充と新たな図書館の整備を掲げられています。ビジョンはできました。さて、これから市民の願う図書館へとどう実現していこうとされているのか、市長の決意を伺います。

鶴見区にある鶴見図書館は築40年、地域の皆さんの声をしっかりと取り入れて、現在の

鶴見図書館の場所も含めて横浜市図書館ビジョンの実現の場として整備に取り組むべきと考えます。教育長の見解を求めます。

現在、学校図書館が市の図書館の本を借りる仕組みは、図書館に実際出かけて何十冊もの本を自力で持って帰るというものです。時間もかかり、大量の本を運ぶ労力は大変です。学校の授業支援も行う学校図書館の機能の充実のためにも、横浜市図書館ビジョンの基本方針１、未来を担う子どもたちのための図書館にある「学校図書館とともに子どもたちの読書と学びを支えます」を実行できるように、区にある図書館と学校図書館の物流も含めたネットワーク化を進めることが必要だと考えます。教育長の見解を伺います。

市民の願いは誰でも行ける身近なところにある図書館が欲しいということです。これに応えて市民が気軽に本に触れる環境を推進するためにも、市民の身近にある地区センターの図書コーナーを図書館分室にしていくなど横浜市図書館ビジョンの実現のフィールドに取り入れる取組が必要ではないでしょうか。市長の見解を伺って、質問を終わります。

ありがとうございました。（拍手）

○副議長（福島直子君）山中市長。

〔市長　山中竹春君登壇〕

○市長（山中竹春君）みわ議員の御質問にお答えします。

教員採用の促進について御質問をいただきました。

教員採用者への奨学金の返還支援についてですが、現在、国の中央教育審議会でも、どのような支援の在り方が教員不足の解消や優秀な人材の確保につながるのか議論されています。また、奨学金の返還を支援している幾つかの自治体がありますが、支援対象は人数制限があり一部の人に限られています。今後の国や他の自治体の動向を注視してまいります。

中学校給食について御質問をいただきました。

提供方式の再検討などを求める市民の声にどう応えるのかとのことですが、生徒の成長を支えるために栄養バランスの整った給食を全員に届けることは学校給食法の趣旨であり、多くの市民の皆様からの長年の要請であると受け止めております。現在、中学校の全員給食に向けた準備を着実に進めております。令和８年度から全校でスムーズに全員給食を開始できるよう供給体制を整備するほか、献立の改善、温かさ、アレルギーへの対応など給食の魅力を高めてまいります。

バス交通の充実について御質問をいただきました。

大幅な減便を行うことは公営交通の責任を果たしていると言えるのかとのことですが、バス乗務員の長時間労働を防ぐ目的で本年４月から改善基準告示が改正され、乗務員の勤務時間が短縮されます。乗務員の勤務時間が短縮されるので深刻な乗務員の不足が見込まれます。市営バスにおきましては、お客様の利用実態に合わせまして全体で３％程度の運行の効率化を行うものであります。交通局には自立経営の下、地域の理解を得ながら市民の足を

しっかり守ってもらいたいと考えます。

GREEN×EXPO 2027について御質問をいただきました。

園芸博までに緑に関する計画を立て実行すべきとのことですが、本市では、緑豊かなまち横浜を次世代に引き継ぐために横浜市水と緑の基本計画を策定して、緑被率の維持向上などに向け、横浜みどりアップ計画や横浜都市農業推進プランなどにより緑の保全や創造の取組を進めてきております。GREEN×EXPO 2027は緑豊かなまち横浜を国内外にアピールする絶好の機会と捉えまして、引き続きしっかり取り組んでまいります。

公費負担が膨らむ場合、有料入場者数を含めた抜本的な計画の見直しが必要とのことですが、出展や行催事計画等の具体化に併せて物価高騰などの状況やコスト抑制策も含め適正な整備水準となりますよう博覧会協会において整備内容を検討しております。また、会場運営費につきましては入場料や出展料等で賄うこととしており、公費による負担は想定していません。

横浜市図書館ビジョンについて御質問をいただきました。

ビジョンの実現に向けた決意ですが、図書館の機能の拡張と図書館サービスへのアクセシビリティーの向上を目指し施設整備等を進めていきます。再整備構想等策定に当たりましては、財政ビジョンを踏まえつつ、横浜市図書館ビジョンで掲げた「新しい“わくわく”を創り出せる、子どもから大人まで、みんなが主役になれる場」にふさわしい図書館の実現に向けて取り組んでまいります。

地区センターを図書館分室にするなど図書館を市民の身近なものにする取組が必要とのことですが、図書館は地域の読書活動を支えるため、地区センター等で活動する読み聞かせボランティア団体へ本を貸し出しています。今後は横浜市図書館ビジョンに基づき、図書館サービスのアクセシビリティーの向上のため、交通結節点等への図書取次所を設置するとともに、サービス空白地帯においては地区センターでの取次の設置も進めます。

以上、みわ議員の御質問に御答弁を申し上げました。

残りの御質問につきましては教育長等より御答弁をいたします。

○副議長（福島直子君）鯉渕教育長。

〔教育長　鯉渕信也君登壇〕

○教育長（鯉渕信也君）横浜市図書館ビジョンについて御質問いただきました。

鶴見図書館の再整備についてですが、現在、仮称豊岡町複合施設再編整備事業として小学校、図書館、保育所、民間施設等の複合化を検討しています。鶴見図書館の再整備に当たっては引き続き地域の皆様の御意見をお聞きし、複合施設の利点も生かしながら横浜市図書館ビジョンを踏まえた機能の拡充を図っていきます。

区の図書館と学校図書館の物流面での連携についてですが、子供たちの豊かな学びを支えるため市立図書館と学校の連携に努めています。このため図書館の蔵書を授業で活用するた

めの学校向け貸出しをしており、本の運搬手段としては令和２年度から事前申請により教員や学校司書がタクシー利用をできるようにしました。引き続き利用の周知を図るとともに、学校の意見も聞きながらよりよい方法について模索していきます。

以上、御答弁申し上げました。

○副議長（福島直子君）三村交通局長。

〔交通局長　三村庄一君登壇〕

○交通局長（三村庄一君）バス交通の充実について御質問をいただきました。

賃金アップでバス運転手の雇用を確保していくべきとのことですが、昨年12月に人事委員会勧告に準じた給与改定等を実施し一定の改善を図ったところでございます。バス乗務員の確保に向けては、給与改定だけでなく働きやすく魅力的な職場環境づくりに取り組んでまいります。

以上、御答弁申し上げました。